

販売額100万円/10aを目指すための夏播き冬どりタマネギ栽培マニュアルを作成					
[要約] 新育苗法を用いた冬どりタマネギの具体的な栽培方法や経営試算を写真やデータとともに示したマニュアル「初めての冬どりタマネギー販売額100万円/10aを目指してー」を作成し、厳守すべき栽培のポイントを示している。					
上場営農センター・研究部・畑作経営研究担当				連絡先	0955-82-1930 uwabaeinousenta@pref.saga.lg.jp
部会名	上場営農	専門	栽培	対象	タマネギ

[背景・ねらい]

新たに開発した冬どりタマネギの新栽培技術により、省力的な冬どりタマネギが可能となる。過去の現地試験の結果では、タマネギ単価の高い12月に4t/10a以上の高収量を実現している農家もいることから今後、本技術を導入した冬どりタマネギの生産拡大が予想される。しかし、短日処理の方法や夏期の高温などの影響によりいくつかの問題点が生じている。そこでこれまでに確立した技術をとりまとめ、具体的かつ重要なポイントを示したマニュアルを作成し、さらなる規模拡大を目指す。

[成果の内容・特徴]

1. 本マニュアルを用いることで、夏播き冬どりタマネギの販売額100万円/10aを目指した省力的な栽培方法が理解できる(図1)。
2. これまでの現地での失敗例や問題点を整理し、厳守すべき栽培のポイントを目次に反映させた(図2)。
3. この技術の栽培の特徴は夏に播種し、育苗トレイを用いたベンチ育苗であり、育苗中の短日処理が必要である(図3、図4)
4. この技術により実現できたのが、全自動移植機による苗の定植である(図5)
5. 高収量を得るためには、定植日を厳守し、定植後の灌水により活着、初期生育を促進し、10月10日に草丈60cm、本葉7枚を確保する(データ略)。

[成果の活用面・留意点]

1. 冬どりタマネギの新育苗技術は佐賀県で開発した栽培特許¹⁾である。このため、本技術に取り組むには許諾が必要である(問い合わせ先 佐賀県農林水産商工本部 生産振興部 園芸課 TEL0952-25-7119)。
2. このマニュアルは平成27年3月頃に関係機関へ配布予定である。

1) タマネギの栽培方法およびタマネギ(特許登録 平成24年10月5日特許5102914号)

[具体的データ]



図1 マニュアルの表紙

目次

I 今だから目指す冬どりタマネギ！

1. 冬どりタマネギの有利性
2. 冬どりタマネギの省力栽培

II 4t どり冬タマの栽培ポイント！

1. 育苗の準備
 - 1) 育苗ハウスの設備と条件
 - 2) 品種
2. 失敗しない苗づくり
 - 1) 播種から発芽までは涼しい屋内で
 - 2) 発芽後は陽当たり・風通しの良い場所で育苗を
 - 3) 短日処理を適期に
 - 4) 育苗中は細かな水管理を
3. 首の絞まった球はこう作る
 - 1) 本圃の準備は必ず盆前までに
 - 2) 定植日を厳守
 - 3) 定植後から活着までは、必ず灌水を
 - 4) 収穫
4. 病気なんか怖くない

III 儲かるためには規模拡大！

1. 上場地域でのタマネギの生産状況
2. 佐賀県における作型別の主な品種
3. タマネギ生産の経営試算
 - 1) 大規模経営事例(冬どり1ha+春どり5ha)
 - 2) 中規模経営事例(冬どり0.5ha+春どり3.0ha)
 - 3) 規模別経営費試算まとめ

○ 参考資料

1. 佐賀県研究成果情報
2. 学会発表要旨等

図2 マニュアルの目次



図3 新育苗法による冬どりタマネギの栽培技術体系



図4 冬どりタマネギの育苗・短日処理施設



図5 新育苗法により可能となった全自動機械移植

[その他]

研究課題名：冬季温暖な上場畑作地帯における夏播き冬どりタマネギの省力育苗および機械化の確立

予算区分：県単

研究期間：2011年～2013年

研究担当者：浦田貴子、石橋哲也、大坪竜太、檜崎耕輔、富永 慧